

研修レポート

議会運営委員会

8月17日に、宮崎県都城市、および小林市において、議会改革の取り組みについて研修を行いました。両市は、早稲田大学マニフェスト研究所が実施した議会改革度調査2015のランキングにおいて、上位にランキングがなされた市です。

都城市

政務活動費の透明性向上と開かれた議会の具現化を図るため、情報公開を積極的に推進しています。また、市民との交流を積極的に行っており、さらに議会の活性化に向けて自由討議が各委員会において試験的に導入されています。

その他、市議会、だよりの内容改善に向けて、広報最終ページに「ご意見をお聞かせください」といった内容のハガキを掲載したり、議会基本条例の一部改正を行い、災害時の議会の役割を追加したりと、活性化を図っていました。

小林市

住民の意見聴取のツールとして、議会広報にハガキを掲載してました。

現在は、議会報告会よりも、市民との意見交換会に重点が置かれ、小学校校区ごとに行われる地区別意見

交換会、10人以上のグループや団体からの申請で行われる分野別意見交換会が行われています。そこで出された意見等を取りまとめ、政策討論会のテーマを決定し、その後、各常任委員会で議論がなされ、最終報告が本会議においてなされています。

また、意見交換会の後には、臨時の議会、たよりの発行し、内容を市民に知らせしてました。



以上、このような流れは、大津町議会としても必要と強く感じたところです。

庁舎建設特別委員会

7月19日に佐賀県神崎市、20日に佐賀県武雄市において、研修を行いました。

神崎市

まず、バリアフリーについて、通路幅の確保、点字ブロック・多目的トイレ、さらに引き戸の設置箇所に注意したとのことでした。

自然エネルギーの活用としては、太陽光発電の設置、自然採光を取り入れるための吹き抜けの設置、屋上緑化、LEDの導入があげられます。その他として、まず「市民協働の

まちづくりを推進するため、1階に多目的会議室や多目的スペースを設け、住民が自由に使えるようにして、休日も開放する」「庁舎内、議場内を地元産の木材を使った親しみのある内部空間にする」などがありました。

また、設計業者はデザイン重視になる可能性があり、庁舎建設本体と事務機器などに分けた提案を行い、新たな手法を取り入れたとのことでした。

武雄市

まず、バリアフリーや省エネについては、佐賀県福祉のまちづくり条例を基本に検討し、省エネでは屋上に太陽光パネルを設置していました。また、各階の外部にひさしとバルコニーを設置すること

により、日射の軽減とメンテナンスに便利とのことでした。

その他、1階は様々な用途に柔軟に対応する市民ホール、食堂の設置を行い、市民同士の交流の場としていました。

さらにスピード感を持たせるため、基本設計・実施設計の施行業者も、佐賀県内及び武雄市の地元業者との共同企業体方式での業者選定が行われました。

以上を踏まえ、コスト削減や、事業を進める上でのスケジュール管理が重要だと思われ



○議会への提言・疑問・質問などをお寄せください。

○今回の議会だよりで関心のある記事や感想があればお書きください。また、もっと読みたくなるような「アイデア」があればお寄せください。
